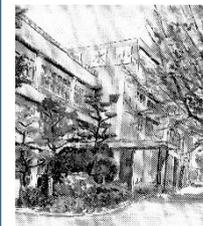




校訓

なかよく
しよく
けん



菊池市立
泗水小学校
学校だより
第24号
R4.3.1
発行
校長
工藤竜一

学校教育目標

「仲良く」「強く」「真剣に」「学ぶ泗水っ子の育成」
「そとへ」「つづける」「チーム泗水」
「オール泗水を通して」

「学校は心を育てるところ」～2月全校集会校長講話より～2月24日（木）

今の学年での授業日は残り18日になりました。そこで、学校に来る目的をもう一度確認したいと思います。

学校で学ぶ目的は、「生きる力」を育て、自立して生きる人間になるためです。「生きる力」とは、「確かな学力」「健やかな体」そして「豊かな心」この3つをバランスよく育てることです。私は、この3つの中でも特に大切なのは「豊かな心」だと思っています。学力をつけることも、体力をつけることも、結局は「豊かな心」を育てることにつながると思うからです。

では、「豊かな心」とは具体的にどんな心でしょうか。たくさんあると思いますが、私は、この5つの心が大切だと思っています。

「①気づきの心 ②思いやりの心 ③感謝の心 ④がまんする心 ⑤正直な心」

11月の全校集会で、宮澤章二さんの「行為の意味」という詩を紹介したように、「日頃の行為が心を育てる」と思います。（掃除の様子、トイレのスリッパ、持久走大会、冬の朝の登校の様子、歩道を毎日掃除される地域の方の様子 の写真を順に提示）

例えば、無言掃除で熱心に掃除をすると、「こんな所が汚れている」と気づきの心や場所に対する感謝の心、冷たい水で雑巾を絞ることでがまんする心が育ちます。トイレのスリッパを並べると、次に使う人に気持ちよく使ってほしいと思いやりの心が育ちます。みなさんの日頃の行為によって、心は豊かに育っていくのです。

あなたは、次の学年までに、どんな心を育てますか？残りの18日間で、まず1つ、豊かな心を育てる行為に挑戦してみましょう。

☆校長室から独り言⑦☆

「担任発表ができないかもしれない？」

「教員不足深刻 学びの質保つ対策早急に」2月7日付けの熊日新聞に取り上げられた記事のタイトルです。今、学校現場では教員不足が深刻な状況になっています。県の教員採用選考考査の受考者が年々減少し、倍率が低下しています。育児休業などで教員が長期休暇を取得した場合に、その後に配置されるはずの教員が配置されないばかりか、4月の人事異動の時点で担任の先生が足りないという事態まで心配される状況だと記事にはありました。

今年度の大学入試では、熊本大学教育学部で初めて、「地域枠」10人の募集がありました。卒業後は、熊本県の教員採用選考考査を受考するという条件で推薦入学できる制度です。ところが、先日新聞に掲載されていた地域枠の受験者数は8人。なんと定員割れ。私が受験生だった頃では考えられない状況なのです。

教師という仕事が、ここまで若者に避けられるようになったのはどうしてなのか。教育の質を確保するためには、もう一度、優秀な人材が数多く教師を目指してくれるよう、学校を取り巻く環境を整える必要があると私は思います。

3月の行事予定

- 3日（木）泗水っ子集会、6年生を送る会
こすもす学級卒業生を送る会
- 7日（月）地区児童会
- 10日（木）読み聞かせ
- 11日（金）4年2分の1成人式、学級懇談会
学校運営協議会
- 16日（水）卒業式練習開始
- 17日（木）ボランティアタイム
- 21日（月）春分の日
- 22日（火）6年修了式、卒業式準備
- 23日（水）卒業式
- 24日（木）修了式、大そうじ
- 25日（金）春休み始まる
- 29日（火）退任式

二月二十五日（金）の授業参観・学級懇談会はお世話になりました。「まん延防止等重点措置」期間となったため、オンラインでの開催になりました。新型コロナウイルスの感染状況は、本校では少し落ち着いては来ていますが、油断はできない状況です。いよいよ三月に入りました。次の学年へつながるよう、学習のまとめをしっかりと指導したいと思います。